

難所施工時の注意ポイント

Q&A

Vol.1

墓石の新規施工・解体工事の際などに「難所」で行なうケースも多いことだろう。このような難所で作業をする際、通常以上に気をつけたいと事故やケガなどに繋がりがねない。この連載では難所施工時における注意点をQ&A方式で紹介していきます。今回は各地の様々な墓所で施工業務を請け負っている(株)美匠の中西あざみ社長にお話をうかがいました。

Q1

解体する墓地が山間や長い階段の上にある場合、どのようにして石を運んでいるか、そのコツや注意点を教えてください。

り、非常に危険です。何よりも安全第一の意識が大切です。

ラッシングベルト、ロープなどで荷締め・固定が大前提ですが、階段の段差がある場合は、その段差が少なくなるように土のうを使って平らにして、コンパネを敷いたりして、安全に運べるようにします。

また墓所の解体工事の場合、実際に基礎部分を掘ってみたところ、コンクリートや鉄筋が想定量以上に出てくることもあります。このような想定外のことも考え、墓所のある地域で機械等のリース会社をあらかじめ調べ、急に必要となった場合に

一回の運搬で、なるべく多くを運びたいと思うのが心情ですが、無理をすると横転したり、下りでブレーキが利かなくなったりする可能性があります。

段差がある現場などもしっかりと養生して安全第一の意識を徹底している



段差がある現場などもしっかりと養生して安全第一の意識を徹底している

も対応できるように下調べをしています。

「急に必要な物が増えた」「機械が壊れた」、そんな場合でも予定通りに作業を終えることができよう、あらゆる想定・準備をしています。

Q2

難所施工時に使える、お薦めの機械・道具などを教えてください。

コードレスの電動チップパーやハンマードリルです。コードがあると現場

で邪魔になったり、石が当たって切れたりすることもあります。特にコードレスのハンマードリルはお薦めです。

それから各サイズの運搬機、引越し業者様を使う養生アイテムもとても便利です。

また、当社では石を砕く際などには石粉を吸い込まないようにマスクを着用し、ヘルメットにはシールドを付けています。このシールドの存在によつて、ドリルで石に穴を開ける時などに発生する「石の跳ね」から目などを守ります。実際に「ヘルメットがあつたことで助かった」というケースも多くあります。

石の積み込みをする時はクッション材の付いたゴム手袋をしたほうが良いです。また、雨の日は石が滑りやすくなりますので、面倒くさがらずに吊り荷の大きさに応じたクランプを使用することはもちろん、いつも以上に慎重な作業が必要です。



コードレスのハンマードリル



【回答者】

中西あざみさん…墓石の回収・収集運搬などで高い実績を持つ(株)美匠の代表取締役。同社では墓石解体工事の代理施工も請け負っており、「解体→撤去→回収→運搬→リサイクル処理」に至る全ての工程で法令遵守を徹底。若手の人材育成にも力を注いでいる。

◆(株)美匠 お客様サポートセンター
奈良県橿原市小房町9-24
Tel.0120-14-5139